

新聞 中国

県立大大学院に国補助金

北東アジア
研究者養成
地域密着を評価

文部科学省が優れた大学院教育に重点的な財政支援をする「魅力ある

プログラム」の本年度分に県立大北東アジア研究科の「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」が選ばれた。地方の小規模大という特性を生かし、地域を巻き込んだ取

り組みなどの計画内容が評価された。プログラムは国単位を越えた地域(北東アジア)を対象とする研究・教育。大学院生を競わせて留学や国際シンポに参加させるほか、準研究員に採用して支援する。新たに「市民研究員」制度を設け、一緒に研究すること

とでキャンパスの外の発想を持ち込んで刺激を与えてもらう。

最終的な補助額は後で決まるが、年間事業費約二千百万円のうち申請した二年間分千六百八十万円が交付される見通し。

申請した百二十九大学二百六十八件のうち三十五大学四十六件という狭

き門だった。スタートした昨年度を含めて山陰の大学では初の選定。宇野重昭学長は「うれしさと同時に責任を感じる。市民にも呼びかけ推進組織をつくりたい」と話している。

北東アジア研究科の大学院生は前期(修士課程)十人、後期(博士課程)九人。ほかに開発研究科(修士課程)に十八人がいる。

(田中伸武)